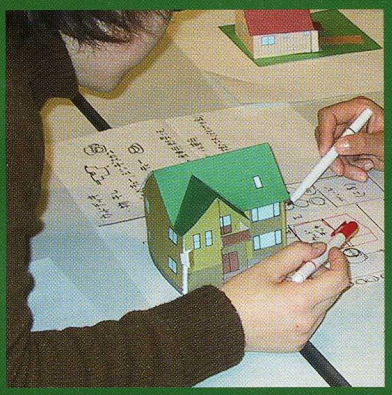
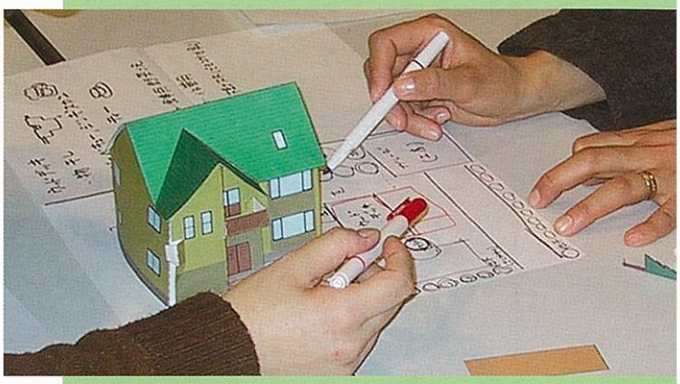
住まいとまちの学習プログラム集2



北海道立北方建築総合研究所

目　次



1　プログラム集作成のねらい　1 ページ

2　学習プログラムの内容　2 ページ

3　プログラム

1　住まいが集まってまちになる　3 ページ

2　北海道の住まい　7 ページ

3　住みよい住居を考える　11ページ

4　地域の「美しい」を考える　15ページ

5　地域の歴史と景観の移り変わり　21ページ

6　住宅地の街並み景観　25ページ

7　どこがあぶない、どうしてあぶない　31ページ

1 プログラム集作成のねらい

住まいとまちの学習

「住まい」や「まち」などの住環境は生活の基盤であり、人格の形成にも大きな影響を及ぼしているといわれています。子どもは将来、大人になって社会の担い手となり、住環境づくりの主体となっていきますが、子どもの時から豊かな住環境の中で様々な体験を積み重ねていくことが良質な住宅、住環境づくりを行っていく上で重要と考えられます。自分が生活している地域の中で形成されてきた住まいやまちについて理解を深め、自ら住まいやまちを改善していく能力と態度を育てていくことを学ぶ住教育が大変重要です。

住環境の形成に関わっているのは、建物や都市など物理的なものだけではありません。自然環境や地域社会、気候風土、文化など大変幅広い事柄が関わっています。高齢化や環境問題なども住環境と密接に関わっています。住環境の形成に主体的に関わっていく力を身につけるには、自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、問題を解決する能力をつけることが求められます。子どもたちにとって身近な題材を取り上げ、体験的な学習、課題発見的な学習、問題解決的な学習を行うことで、実際の生活に生かすことができるようになります。

学校での住教育

住教育は学校に限らず家庭、地域など多様な場面での展開が考えられます。家庭では日常の生活の中で住まい方を学んでいきますし、地域では大人も子どもも一緒になってその地域の住環境の課題を考えることができます。学校では住まいについての視点、問題を体系的に理解しその対処の仕方を身につけていくことができることに特徴があります。子どもたちの発達段階に応じて「興味関心を引き起こす」ことからはじまり、「関心から理解」へ、「理解から参加する態度・問題解決能力の育成」へと住教育の役割も変わってくると考えられます。住環境に関わる内容を扱っている教科は家庭科、社会科、生活科、理科など複数の教科にわたりますが、広範な内容を含んだ住環境について理解することで、問題解決の力を身につけていくことができるようになることが望まれます。

プログラム集の活用

本プログラム集は、北海道の気候風と歴史などと結びつけながら住まい、まちを学ぶための題材を学習プログラムの形にまとめました。家庭科、社会科、総合的な学習などの教科での学習に位置づけて実施することができますので、学校の授業での活用をお願いします。

2 学習プログラムの内容

住まいとまちに関わる家庭科、社会科、総合的な学習などで実施できる授業の学習プログラムを掲載しています。どの教科に位置づけて実施するかは、それぞれ内容を確認のうえで判断してください。また、実施する学年についても特に決まっているわけではありません。住まいやまちを題材に、小学校から高等学校までの幅広い段階で、実施する学年に応じて内容を変更して活用できます。

各プログラムの概要

プログラム名	概　　要
住まいが集まってまちになる	ペーパークラフトを使って、住宅の敷地、住宅地、まちと空間の広がりの段階ごとに住環境について関心を持ち考える力を身につける。
北国ならではの住まい	積雪寒冷な北海道の住まいの特徴を結露の実験から学び、家族の各部屋での過ごし方から、必要な機能や役割を考える。
住みよい住居を考える	一人暮らしの住まいを生活経済と結びつけながら計画し、暮らしに必要な機能は何か考え、居心地の良い住まいについて理解する。
地域の「美しい」を考える	他の地域や自分の住む地域の写真からまちの美しさを感じ取る力を養い、地域の景観がどのように作られているのか考える力を身に付ける。
地域の歴史と景観の移り変わり	地域の景観の歴史的な移り変わりを調べ、違いを読み取り歴史や生活が景観とかかっていることを知る。
住宅地の街並み景観	景観を見る目を養い、自分の住むところの景観の良いところ悪いところを見つけ出して、どうしたら良くなるか考える。
どこが危ない、どうして危ない	生活する地域の様々な「危険」を見つけ出し、その原因の読み取りと、対策方法を考えることを通して、危険回避能力を身につける。

各学習プログラムの構成

学習プログラム案	題材に応じて数時間の授業案をとりまとめています。学習プログラム中の「評価の観点」の欄は空欄となっていますが、授業を行う学年や教科の位置づけなどを考慮して設定してください。
資　　料	授業で使用する資料です。児童生徒が記入するもの、説明資料としてそのままコピーして使用することができます。
解　　説	題材の説明、資料の使い方、授業を進めるためのヒント、事例の紹介などです。

※本書で紹介している学習プログラム、資料、関連する教材などについて北方建築総合研究所のホームページからダウンロードして使用することができます。

関連資料

・住まいとまちの体験学習プログラム集「ただいま。」（北海道立北方建築総合研究所）
・住まい・まち学習資料集「北海道のすまい・まち・くらし」（北海道立北方建築総合研究所）
・景観学習の手引き（北海道）

3 プログラム

学習プログラム2　住まいの機能と役割

1 **題材名**　住まいが集まってまちになる

2 **ねらい**　生活をしていく上で必要な住環境への関心を持ち、自分の生活と結びつけて考える力をつける。

3 **学習の展開**

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項	評価の観点
導入	ペーパークラフトづくり	・つくりかたの手順を確認してペーパークラフトをつくる。	1		
展開	敷地の使い方を考える	・ペーパークラフトを敷地に置き、建物の配置、庭の使い方を考える。	1	・方位に注意を向ける。 ・夏と冬のことを考えさせる。 ・屋外での家族の暮らしをイメージさせる。 ※解説１	
	住宅地の環境を考える	・それぞれの敷地をつなげて、街並みや近隣関係を考える。	1	・隣同士の庭の使い方、コミュニケーションをイメージさせる。 ・住宅が並んだときの街並みについて気づかせる。	
	まちの環境を考える	・大きな台紙に住宅を並べ、まちに必要な機能を絵にしていく。	1	・様々な住環境の要素があることに気づかせる。 ※解説２	
まとめ	住環境を知る	・生活する上で大切な住環境とは何かを考える。 ［資料１］		・どのような環境なら住みたいかを引き出す。	

資料１　住環境評価表

■自分の身の回りの住環境の良い点、悪い点を書き出し、理想的な（住んでみたい）住環境について考えてみよう。

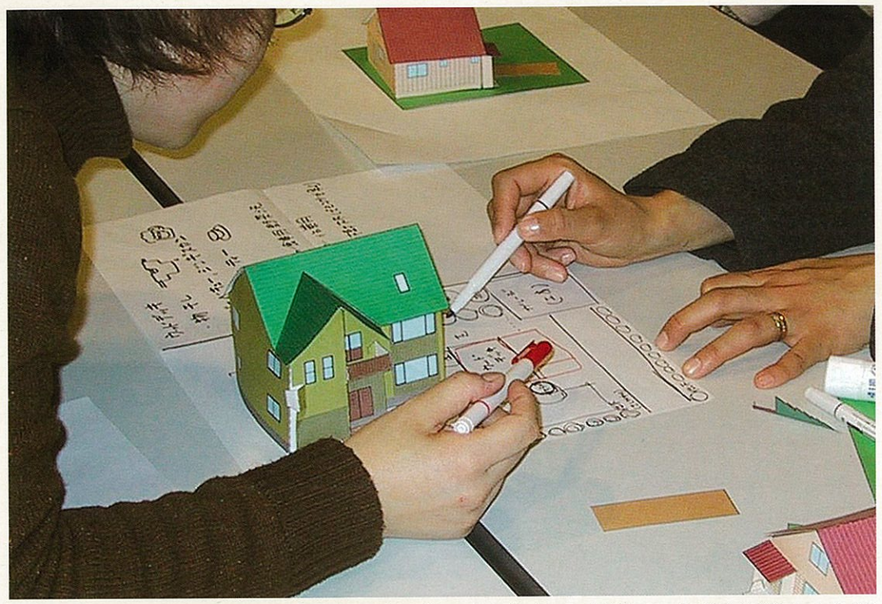
項　目	身の回り （現実の住環境）	理　想 （あなたの住みたいところ）

■**住環境の項目例**

・利便性（交通機関、商業施設、公共施設など）
・健康性（騒音、日当たり、排ガスなど）
・安全性（交通、犯罪など）
・快適性（公園、景観など）

解説　1

展開「敷地の使い方を考える」



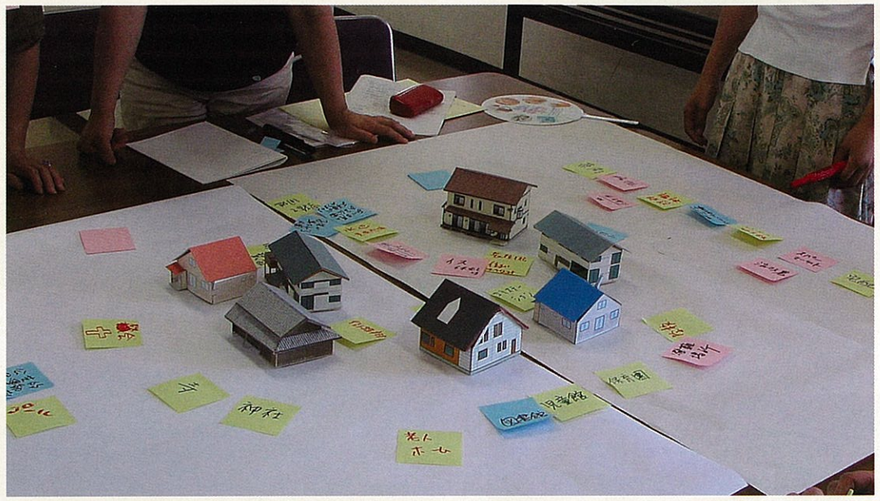
ペーパークラフトを敷地の用紙に置き庭の使い方を考える。屋外での生活を既設による使い方を考えながら書き込む。外の環境と屋内の環境の関係にも気づかせる。

展開「敷地の環境を考える」

各グループの敷地を並べ、隣同士の関係や庭のつながりから街並みの形成への工夫について話し合う。それぞれの家の場所を入れ替えてみると街並みが変ることもある。

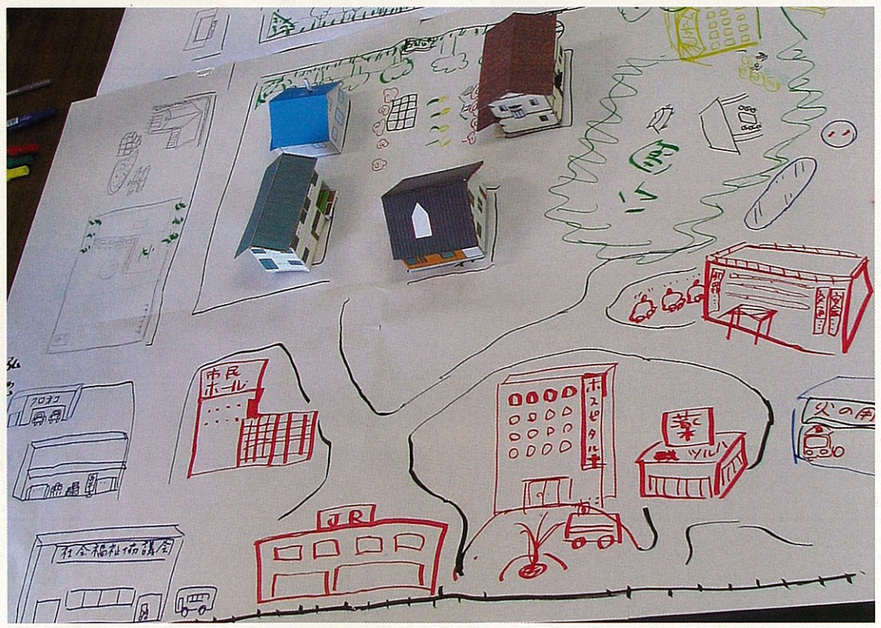
解説　2

展開「まちの環境を考える」



はじめは付箋を用いて言葉で必要な施設など住環境の要素を書き込んでいく。

展開「まちの環境を考える」



付箋を要素ごとにまとめていき、イメージを絵にしていく。

学習プログラム2　住まいの機能と役割

1 題材名　北海道の住まい

2 ねらい　住居に必要な性能、機能を知り、また地域特性を踏まえた北海道の住まいの特徴を知る。

3 学習の展開

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項	評価の観点
導入	住まいの地域性	・北海道の住宅と他の地域の住宅の写真を見比べその違いを探す。 ［資料1］ ・写真の地域の気候風土を調べる。	1	・材料、形態の違いのみならず生活の違いにも気づかせる。 ・違いの背景を考えさせる。	
展開	住居と結露	・結露の実験を行う ［資料2］ ・結露がなぜ起こるか、住宅で起こったときの問題点を考える ・結露以外の住居の問題を考える。	2		
発展	住宅の結露を探す	・住宅、建物の温度を測ってみる。 ・結露の起きている、起きそうな場所を探す。 ※冬場に限定	1	・いろいろなところの温度を比較して、低いところを探す。	
	住居の機能と役割	・家族の暮らし方から、住みよい住居の条件を考える。 ［資料3］	1	・住まいには様々な機能が求められることに気づかせる。	
まとめ	快適な暮らし	・快適に暮らすための住環境についてグループでまとめ発表する。	1	・必要な空間、機能についてグループでのまとめを促す。	

資料 1　北海道の住宅の特徴

北海道の住宅	
他の地域の住宅	高知県の住宅 沖縄県の住宅 岐阜県の住宅
違いの特徴	

資料２　住宅の結露

■結露の実験

１．実験用具

・容器　ガラス、プラスチック（少し厚いもの）、発砲プラスチックの３種類

・水と氷

・温度計　水の温度を測るものと、できれば容器の表面温度を測るもの（放射温度計）

２．実験の手順

①　容器に室温の水を半分程度入れ、温度をはかる。

②　ガラス、プラスチック、発泡プラスチックの容器に氷を入れる。

③　氷を入れたら０分、５分、10分、15分と温度をはかり表面を観察する。

３．実験結果

	ガラスの容器（水）	ガラスの容器（水＋氷）	プラスチックの容器	発砲プラスチックの容器
０分	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：
５分	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：
10分	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：
15分	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：	水温： 表面温度： 表面の様子：

■結露以外の住宅の問題点について考えてみよう

資料３　住居の機能と暮らし

■家族の生活の場所と行為を書き出してみる

家族名	居　間	台　所	食　堂	寝　室	浴　室	子供室	便　所	(自由記入)
(例)母	掃除 洗濯物片づけ	炊事	食事	睡眠	入浴		排泄 読書	

■各室で行われている生活行為からそれぞれの部屋で求められる性能や機能を考える

空　間	居　間	台　所	食　堂	寝　室	浴　室	子供室	便　所	(自由記入)
どんな性能や機能が求められるか								

学習プログラム3　住要求と経済生活

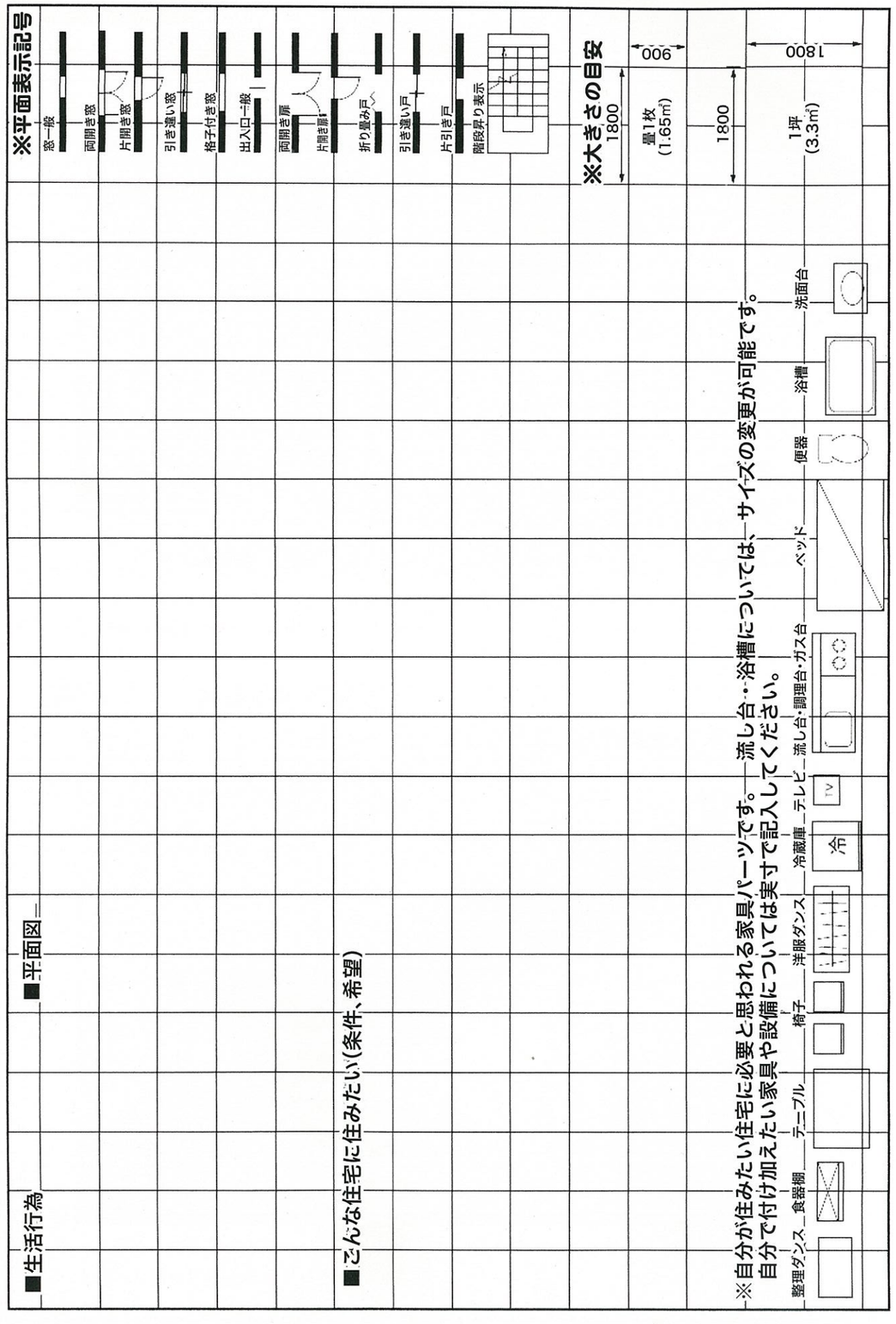
1 **題材名**　住みよい住居を考える

2 **ねらい**　住居に必要な性能、機能を知り望ましい住生活を営む能力を身につける。

3 **学習の展開**

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項	評価の観点
導入	住居の機能	・心地よい住まいの条件を考える。	1	・心地よく感じた経験や不快だった経験を思い出させる。 ※解説１	
展開	住居の機能と役割	・家族の暮らし方から、住みよい住居の条件を考える。 [学習プログラム２の資料３]	1	・住まいには様々な機能が求められることに気づかせる。	
	一人暮らしの住まい	・高校卒業後、就職して一人暮らしするという想定で、暮らしてみたい住居を計画する。 [資料１]	2	・自分の暮らしをイメージさせる。 ※解説１ ・平面表示記号を使用する。	
	住居費と生活設計	・１㎡当たりの家賃と付加価値の単価から住宅賃料を計算する。 ・家具を記入し部屋を完成させ、そこでの生活をイメージする。 [資料２]		・住宅の仕様、室と賃料の関係を理解させる。 ・生活費全体を考えさせる。 ・家具パーツの絵を活用する。	
まとめ	住要求	・心地よい住まいの条件から、予算と住宅を見直し、生活に問題がないか検討。 ・自分は「一人暮らしの住居」にどのような条件を求めたか発表する。	1	・生活する場所の環境も考えさせる。 ・自分の住み方のイメージを持たせる。 ・特に重視した点を発表させる。	

資料１　平面図作成シート



資料２　住居費、生活収支計算表

住居単価積算表

	項目	単価(円)	単位	数量	金額	備考
基礎	住宅基本料金	17,000		1	17,000	暖房、ガス、照明など
住宅	住宅面積	1,000	㎡			全体
	築年数	△ 400	年			最大15年
	居住階数	760	階			
	駅までの距離(徒歩)	△ 400	分			最大15分
	駅までの距離(バス)	△ 700	分			最大15分
付加	トイレ	600	有			
	浴室	2,000	有			
	バストイレ別	1,000				バストイレが一緒の場合は０円
	収納	100	㎡			
	洗面台	500	有			
	シャンプードレッサー	1,000	有			
	オール電化	1,200	有			
	フローリング	400	有			
	南向き	400	有			
	バルコニー	800	有			
	出窓	400	箇所			
	エレベーター	900	有			
	オートロック	500	有			
	ＣＡＴＶ	800	有			
合計					円	

生活収支計算表

■収入

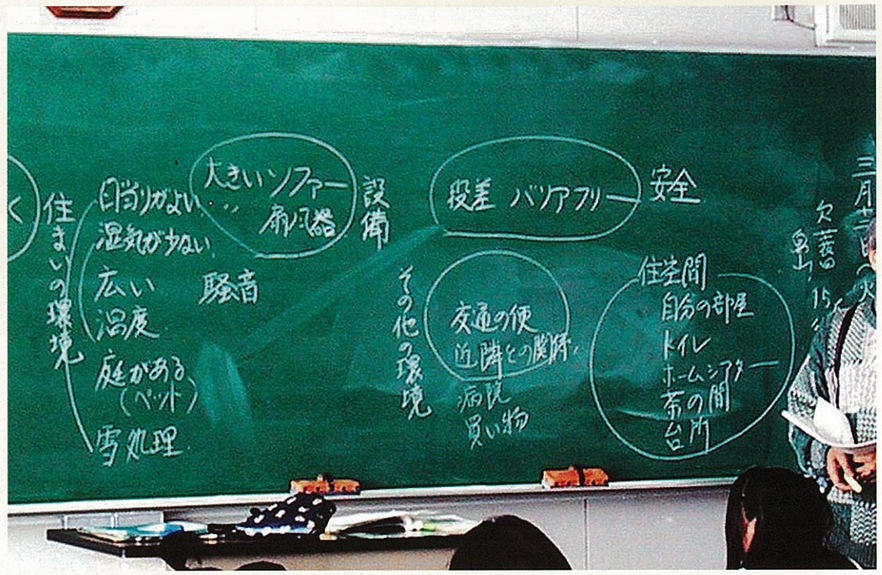
基本給、手当	152,000円
税金、保険料	△ 21,000円
手取額	131,000円

■消費支出内訳

①食物費	38,000円	外食も含む
②被服費	円	
③住居費	円	
④光熱費、水道費	9,700円	電気、ガス、灯油等
⑤衛生費	4,500円	洗剤、薬代等
⑥教養娯楽費	円	電話、新聞代、受信料等
⑦交際費	円	冠婚葬祭等
⑧交通費	円	
⑨その他（小遣い）	円	
⑩預貯金	円	
①+④+⑤=	52,200円	
支出合計	円	

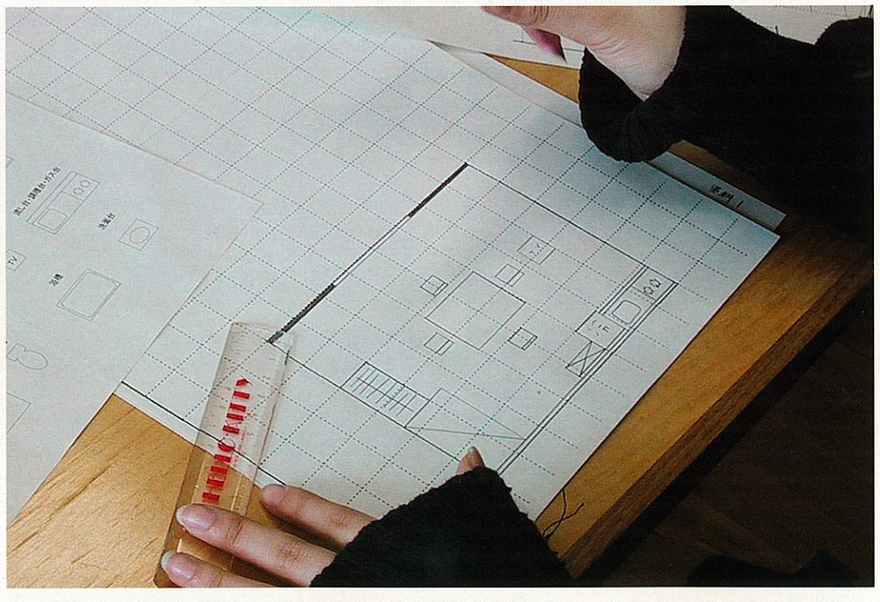
解説　1

導入「住居の機能」



導入「住居の機能」のまとめ方。生徒から出された心地よい住まいの条件をグループにまとめて、住居の機能に気づかせる。

展開「１人暮らしの住まい」



１人暮らしの住居の間取りづくりから、そこでの生活をイメージさせる。必要な家具、設備と暮らし方の対応を考えさせる。

学習プログラム4　暮らしと景観①

1 題材名　地域の「美しい」を考える

2 ねらい　景観が暮らしと密接に関わっていることを知り、目に見える美しさだけではなく、景観が形作られている背景を感じる力を身につける。

3 学習の展開

○総合学習などで地域学習の一環として実施できる。
○図工、美術の学習としての実施も可能である。

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項
導入	写真から景観を学ぶ	・いろいろな景観の写真を見ながら何を感じるかを各自記入し発表する。 ［資料１］	1	・発表の中で景観とは、見た目だけではなく、その背景にある歴史や生活などを含んだものであることを気付かせる。
展開	自分のまちの好きな景観探し	・グループでまち歩きをして、好きな景観と、嫌いな景観、美しい景観などを探し、写真をデジカメで撮る。 ・撮影場所、年月日、撮影者名、感じたことをその場で記入する。 ［資料２］	1〜2	・まち歩きの際は、地域の歴史や景観に詳しい人が同行すると、多くのことを気付くことができる。
	景観の構成要素を調べる	・写真をプリントし、写真の景観が何によって形成されているか構成要素を記入する。 ・構成要素を踏まえ、どうしてそう感じたかを記入する。 ［資料２］	1	
発展	景観の季節の変化を調べる	・四季を通して、同様のまち歩きを行ない、季節によって、感じ方が変わる事を学ぶ。		夏休み・冬休みの自由研究等を活用することもできる。
まとめ	景観の背景を考える	・まち歩きで撮った写真をもとに、なぜ好きなのか、美しいと感じるのかを考え、議論する。	1	・写真やＴＶの世界ではない、普段生活している身の回りにも、好きな所、美しい所があることを知る。 ・目に見える美しさだけではなく、景観が形成されている背景を感じる力を身につける。

資料１　いろいろな景観を見て感じよう、考えよう（その１）

①白川郷（岐阜県白川村）

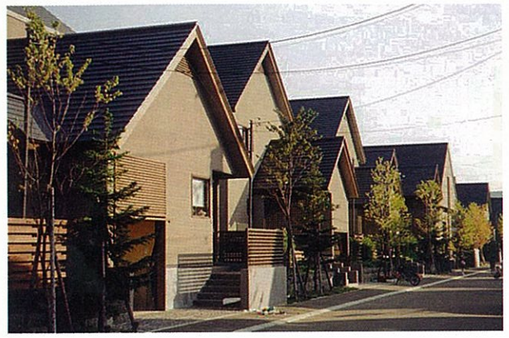
感じたこと	

②産業と景観

感じたこと	

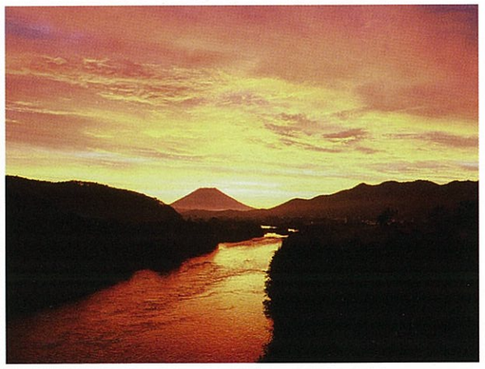
資料 1　いろいろな景観を見て感じよう、考えよう（その2）

③住宅地



感じたこと	

④自　然



感じたこと	

資料 1　いろいろな景観を見て感じよう、考えよう（その3）

⑤レジャー

感じたこと	

⑤携帯電話の電波塔、廃車置場

感じたこと	

資料２　まち歩き調査シート[１箇所１枚]

写　真			
撮影場所		撮影年月日	
		撮影者名	
感じたこと			
景観の構成要素			
どうしてそう感じたか			

解説　１　景観を考える視点

景観の視点で地域を学習することの意義

地域の様々な背景が目に見える形で現れている「景観」の視点で歴史や風土、環境、産業、生活などを学習することで、より分かりやすく理解できるとともに、子どもにとって、自分達が暮らすまちの美しさを感じる力を養うことができます。

景観とは

景観とは、長い時間の中で生活や産業といった営みが周りの自然や風景に重なり合い、私たちの目に映し出される光景を言います。それは、地域の歴史を物語り、文化の積み重ねを通じて人々の暮らしを反映し、環境と地域社会とのかかわりの度合いを客観的に把握できるものです。目に見える美しさを感じることに加え、景観が形作られている背景を考えることが大切です。

景観 ＝ 見た目(色、素材、形) ＋ 景観が出来上がる背景(歴史、気候、風土、環境、生活、産業)

景観の見方の例

資料１に示した景観の写真を元に、その背景にあるものをまとめました。

①歴史を感じる景観

白川郷(岐阜県白川村)には急傾斜の厚い茅葺き屋根の家並みが今も残っている。寒冷豪雪の気候への対応や小屋裏での養蚕に適した建築で、世界遺産になり、国内外の観光客が多数訪れている。

②産業から生まれる景観

雄大な自然を背景に農業や漁業などの営みによる景観は、北海道の景観の特徴の一つ。この雄大な自然の中で育まれる農産物や水産物は、安全でおいしいなど北海道ブランドとして、国内はもとより最近では中国などへの輸出も行われている。

③身近な生活から生まれる景観[住宅地の景観]

住宅地の景観は、建物の屋根や壁の素材、色に加え、屋根傾斜など形や壁面の位置、街路樹や植栽などの緑などによって形成される。さらに、住宅に付属する車庫や石油タンク、電柱・電線なども景観の構成要素となっている。

④雄大な自然景観

北海道ならではの雄大な自然景観。これらの自然景観は、個人や一つの市町村で守ることはできない。市町村の枠を超えた範囲でいろいろな人が協力する必要がある。

⑤自然を活かしたアクティビティ

北海道の雄大な自然を生かしたレジャーやスポーツから生まれる景観。国内外から多くの観光客がこれらのアクティビティを目的に北海道を訪れている。

⑥景観の阻害要因

美しい景観を人工物などが阻害する場合もある。例えば眺望の良い場所での携帯電話の電波塔(左写真)や野積みされた廃車置場(右)など。これら以外にも、電柱や看板なども阻害要因となる場合がある。

学習プログラム5　暮らしと景観②

1 **題材名**　地域の歴史と景観の移り変わり

2 **ねらい**　昔の生活など地域の歴史の視点から景観を考える。

3 **学習の展開**

○地域の歴史を学ぶ地域学習に景観の視点をいれて実施できる。

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項
導入	昔の景観を知る	・昔と現在の景観の写真を見て、見た目の特徴を記入する。 ・昔と現在の景観の写真を比較してそれぞれどう感じるか、またどうしてそう感じたかを記入し、発表する。 ［資料１］	1	・昔と現在の暮らしの違いが景観にどのような影響を与えているかを気付かせる。
展開	昔の景観を調べる	・自分の地域の昔の写真や情報はどこにあるか調べる。 ・祖父母や役場の資料などから、自分の地域の古い写真を探し、見た目の特徴を記入する。 ［資料２］	1	・建物や道路、緑など写真から景観を分析する力を養う。 ※解説１
	地域の今の景観を調べる	・昔の写真の場所に行き、同じアングルで現在の写真を撮る。 ・現在の写真から見た目の特徴を記入する。 ・昔と現在の写真を見比べて、どう感じるか、そう感じた理由を記入する。 ［資料２］	2	
まとめ	歴史から景観の変化を学ぶ	・資料２について発表を行なう。	1	・歴史や生活の変化が景観に密接に関わっていることを学習する。

資料１　景観の昔と今の比較事例

大正十四年		見た目の特徴	建物	
			道路	
			その他	
		どう感じるか、そう感じた理由		
昭和五十三年		見た目の特徴	建物	
			道路	
			その他	
		どう感じるか、そう感じた理由		
平成十九年		見た目の特徴	建物	
			道路	
			その他	
		どう感じるか、そう感じた理由		

資料２　地域の歴史と景観の移り変わり調査シート

昔		見た目の特徴	
		どう感じるか、そう感じた理由	
今		見た目の特徴	
		どう感じるか、そう感じた理由	

解説　1

◆地域の昔の写真から景観の違いとその背景を探る視点◆

［昔と現在の写真を比較によりわかる景観の違い］

■建築

□景観構成要素の変化

開拓時の本州と同じ建物の移入から、積雪寒冷地に適合した建物へと進化。

○構造・構法

・住宅：木造伝統的構法→北海道型木造＋ツーバイフォー＋工業化住宅。

・商業建築：木造→鉄筋コンクリートや鉄骨造のビルへ。

○屋根

・素材：茅葺、柾葺、瓦葺→トタン。

・形態：緩勾配の和風建物→急勾配の洋風建物。

○壁

・素材：木（下見板）→モルタル→サイディングなど。

・看板やのぼり、自動販売機など。

□昔と現在の景観を考える視点

○昔　：どの建物も同じ材料･構法で作られていたため調和の景観がつくられていた。

○現在：さまざまな材料、色、形でつくられるため、調和のある景観がつくられにくい。

■商店街

戦後の高度経済成長を経て、現在では中心商店街の衰退が目立ってきている。

□景観構成要素の変化

・経済成長期の商店街のにぎわいを経て、現在多くの商店街がにぎわいが消え空地や空き店舗が増えシャッター街と呼ばれる所もある。

・インフラの整備などにより生活利便性の向上。

・看板、自動販売機など商業に関連する付属物が増えた。

□昔と現在の景観を考える視点

商店街の景観は、建物や付属物の変化に加え、にぎやかさなどにも大きく影響を受ける。

■道路など

車社会への移行により道路整備が進んだ。

□景観構成要素の変化

・幅員が大きくなり、アスファルト舗装となる。

・道路標識が整備。

・電柱、電線。

・携帯電話の電波塔。

□昔と現在の景観を考える視点

・車という便利な手段を手に入れたことと引き換えに、景観などでは失った面も少なくない。

学習プログラム6　暮らしと景観③

1 **題材名**　住宅地の街並み景観

2 **ねらい**　身近な景観である住宅地などの街並みについて、どのように形作られていて、どうしたら美しい街並みになるかを学習する。

3 **学習の展開**

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項
導入	いろいろな街並みを知る	・いろいろな街並みの写真を見て、感じたことを発表しあう。 ［資料１］	1	
展開	好きな景観を分析する	・４つの街並みのうちで、最も好きな景観について、好きと感じた理由と、街並みの特徴を記入する。 ［資料２］	1	
	まち歩きで街並みを見る、感じる	・自分達の暮らすまちを歩いて、好きな街並みと嫌いな街並みを探し写真を撮る。 ・場所・時間を記入。	1	・まちづくりの専門家と一緒にまち歩きをすると、いろいろなことに気付く。
	美しい街並みにするためにはどうしたらよいか	・写真から街並みの特徴と好きまたは嫌いな理由を記入。 ・どうしたら好きな街並みになるかを記入。 ［資料３］	1	
発展	四季の街並みの変化	・撮った写真と同じ場所で春の新緑、夏の花、秋の紅葉、冬の積雪などの写真を撮り、四季の変化を感じる。		・季節により街並みは変化することを学ぶ。
まとめ	美しい街並みをつくるために	・資料３をもとに発表する。		・個人の所有物である住宅（土地）の素材・色・形や緑などが街並みを構成していることに気付き、その部分はみんなのもの（公共的）であることに気付かせる。

資料 1-1　いろいろな街並み

●歴史的な街並み①

昔ながらの街並み（岐阜市内の旧市街）
同じ形、素材の建物が壁面や軒の出が揃って連続している。電柱など付属物が無い

●歴史的な街並み②

茅葺き屋根の街並み（岐阜県白川村）

●材料や色が揃っている街並み

広い敷地に北欧の建物が並んでいる住宅地（当別町）

●色や形が揃っている街並み

屋根・壁の素材や色、壁面の位置が揃っている（札幌市）

●形が揃っている街並み

色は違うが素材、形、壁面の位置が揃った街並み（カナダ）

●素材が揃っている街並み

建物の形や色は異なるが、素材として木を使い、壁面の位置が揃っている（札幌市）

資料 1-2　いろいろな街並み

●現在の一般的な街並み

現在の一般的な街並み
屋根の形や壁の素材・色、壁面の位置はそれぞれ異なっている（東神楽町）

●緑と街並み

ボリュームのある樹木により緑豊かな街並み（旭川市）

窓辺などに花を飾っている（旭川市）

●車庫と街並み

一家に２台分の車庫がある街並み（旭川市）

車庫を建物と一体的に作った街並み（富良野市）

資料 2　いろいろな街並みを見て考えよう

①

②

③

④

最も好きな景観の番号とその理由	番　号	
景観の特徴	屋根の形	
	屋根や壁の素材・色	
	壁面の位置	
	緑	
	その他	

資料３　まち歩き調査シート

	好きな街並み	嫌いな街並み
写真		
場所		
時間	平成　年　月　日　時頃	平成　年　月　日　時頃
氏名		
好き又は嫌いな理由		
景観の特徴		
どうしたら美しくなるか		

解説　1

◆住宅地の街並みの構成要素◆

住宅地の街並みは、建物（壁、屋根、窓、車庫）、緑（住宅の庭、街路樹）、道路、電柱、電線などで構成され、その素材、形、色、高さ、大きさ、位置などで特徴付けられます。

なぜ、昔の街並みは美しかったのか？
- ○同じ素材、形、デザインの連続していた
  - ・地元の材料を使う
  - ・同じ棟梁が同じ工法でつくる
- ○付属物が少なかった
  - ・電柱や車庫

なぜ、現在の北海道（日本）の住宅地の街並みが美しくならないか？
- ○建物寿命が短い
- ○つくり手や工法が様々
- ○多種多様なデザイン、材料
  - ・材料のグローバル化（全国、世界）

街並みづくりの取組み例

①歴史的建築物の保存（函館市）

歴史的景観を保存･誘導する地域内で、歴史的建築物を指定し、外壁の修理等への助成や、歴史的景観に配慮した建築物の新築をする際に助成を行っています。

②建物の色のコントロール（西興部村）

建物の改修や増改築、新築の際に、屋根や外壁の色彩を景観形成指針で示す『おすすめ色』にする場合、建設費等への助成を行っています。　また、景観をそこねていると判断される廃屋を解体撤去する場合にも助成を行っています。

③街路樹を住民との協働で育成（旭川市神楽岡通り（プラタナス通り））

街路樹については、落ち葉の清掃などの管理が自治体の負担になることから極端な剪定により清掃負担を減らす例も見られます。ここでは、地域住民や高校生が積極的にボランティアで清掃活動を行うことにより、自然樹形での育成が可能になり、緑豊かな街路樹による街並みが形成されています。

学習プログラム7　安全安心まちづくり

1 **題材名**　どこがあぶない、どうしてあぶない

2 **ねらい**　地域の危険箇所を知り、その危険要因を考え、危険に遭わないようにするにはどうしたらよいかを体験的に学習することにより、危険回避能力を身に着ける。

3 **学習の展開**

段階	学習事項	学習の流れ	時間	指導上の留意事項
導入	危険箇所マップづくり	・交通事故や犯罪の面でどんな危ない思いをしたか、その時間などを記入する。 ［資料１］ ・資料１を発表し危険箇所マップをつくる。	2	・どこが特に危ないかを把握するため、同じ場所での危ない思いをしたことがある人の数を表現する。 ※解説１、２
展開	危険要因の捜査	・作成したマップに基づき、予め危ない思いをしたことがある人が多かった場所を決め、グループに分かれ、資料２「現場捜査シート」に基づき危ない内容と危ない理由を記入する。	2	・現場に行く際には、警察など専門家と一緒に捜査することによって、気付きやすくする。
	安全のために	・どうしたら危険を回避できるか、安全になるかをグループで話し合って記入する。 ［資料２］ ・写真や記入した内容をマップに記入する。	1	・自分達でできること、道路構造や標識など、地域の人のコミュニティが安全安心に結びつくことを気付かせる。 ※解説３、４
発展	危険への対処方法の学習	警察官による、不審者に遭遇した際の対処方法を、体験的に学習する。		・警察の協力・指導を得ながら実施する。
まとめ	地域の人達に発表する	地域の人達を呼び、マップや資料３でまとめたことをグループごとに発表する。	1	

※作成したマップをＰＣ上に記録しておくと、その後の学習の展開や地域への配布などに活用できます。

資料１　あぶない思い調査シート

	交通事故の面で	犯罪の面で
場　所	①を黒色でマップに記入	①を赤色でマップに記入
どんなあぶない思いをしたか		
時　間	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他
一緒にいた人数	□１人　□２人　□３人　□４人以上	□１人　□２人　□３人　□４人以上
誰に言ったか	□親　□先生　□警察　□その他	□親　□先生　□警察　□その他

	交通事故の面で	犯罪の面で
場　所	②を黒色でマップに記入	②を赤色でマップに記入
どんなあぶない思いをしたか		
時　間	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他
一緒にいた人数	□１人　□２人　□３人　□４人以上	□１人　□２人　□３人　□４人以上
誰に言ったか	□親　□先生　□警察　□その他	□親　□先生　□警察　□その他

	交通事故の面で	犯罪の面で
場　所	③を黒色でマップに記入	③を赤色でマップに記入
どんなあぶない思いをしたか		
時　間	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他	□通学時　□下校時　□塾などの途中 □帰宅後の遊びで　□その他
一緒にいた人数	□１人　□２人　□３人　□４人以上	□１人　□２人　□３人　□４人以上
誰に言ったか	□親　□先生　□警察　□その他	□親　□先生　□警察　□その他

資料２　現場捜査シート[１箇所１枚]

写　真	
撮影場所	マップの当てはまる位置に①と記入
あぶない内容	予め、内容を書いておく
あぶない理由	
どうしたら安全になるか	

解説　1

■安全安心の視点で地域を学ぶことの意義

地域の環境や生活について、安全安心の視点を加えて学習することで、より身近なこととして理解を深めることができるとともに、子どもにとっては、危険回避能力を身に着けることができる。

■全体の流れ

①危険箇所マップづくり

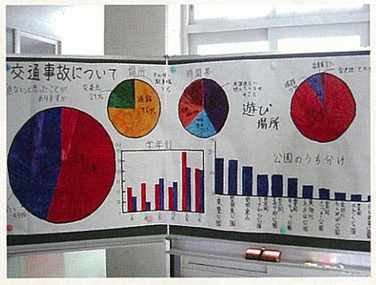
②危険要因の捜査（１時間で２ヵ所程度）

デジカメと危険箇所マップと現場捜査シートを持って現場捜査

危ない思いをした人が多かった押しボタン式横断歩道の危ない理由は多人数で渡るには青信号の時間が短いことに気が付いた

③安全安心マップの作成

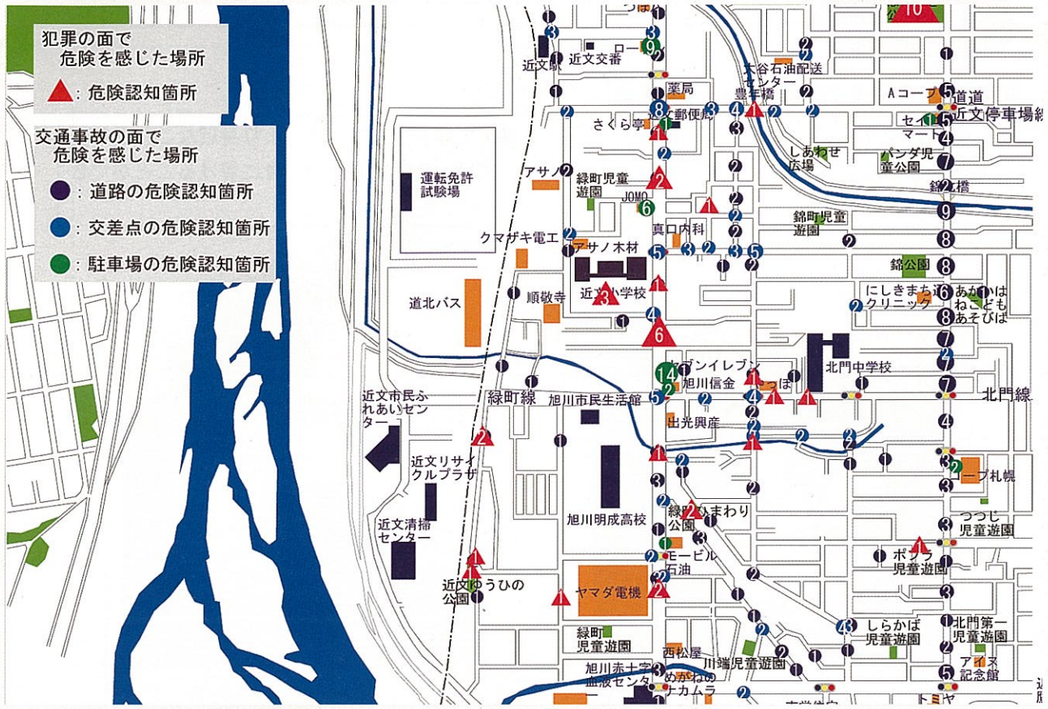
捜査してきた現場写真や危ない理由をマップ上に書いていく



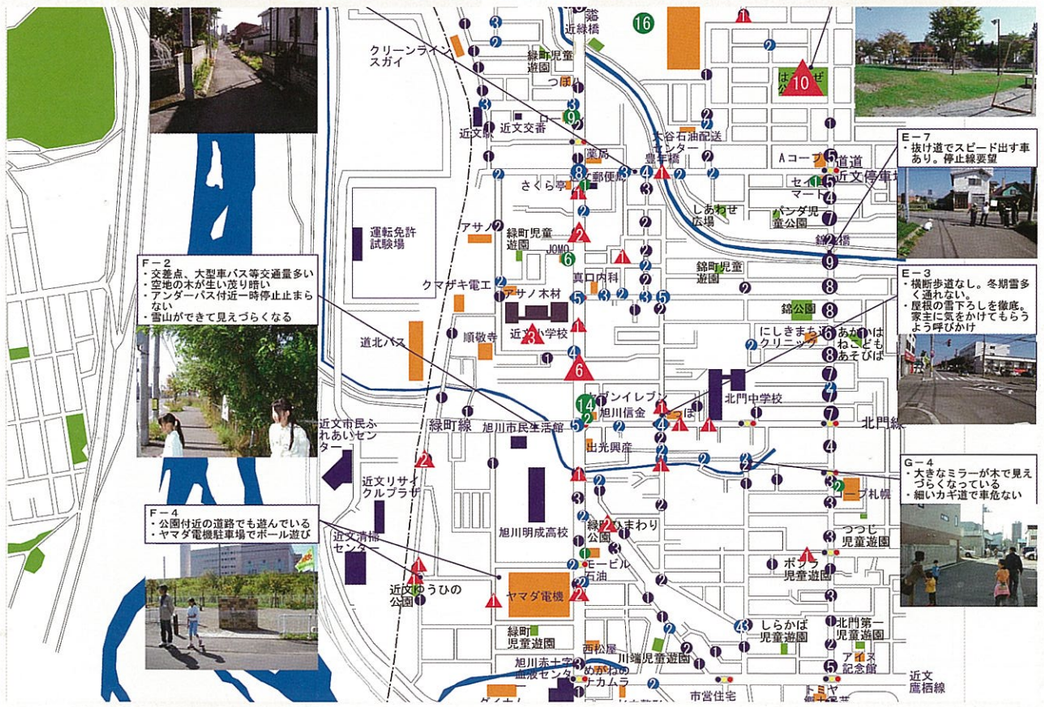
交通事故や危ない思いをした場所について、グラフや表にまとめる

生徒や地域の人達を前に結果を発表する

解説 2 危険箇所マップ



解説 3 出来上がった安全安心マップ



解説 4 子どもの安全安心についての危険要因の例

(1)交通事故に関する危険箇所の要因

①道路、交差点などの空間構造上の要因

狭い歩道に電柱があるなど登校時の学校周辺で狭い歩道から車道へはみ出て歩く

積雪で歩車道の境界が無くなっている

歩道が車道に向けて傾斜していて、凍結時に滑りやすい

歩車道の間の雪山により、歩行者、運転手共に交差点の見通しが悪くなる

民家の塀で車が見えにくいスーパーの搬入口

(2)犯罪に関する危険箇所の要因

周辺の住宅からの視線がない公園（住宅の北面外壁の窓は小さく、少ないことによる）

信号や一時停止が無く、幹線への抜け道になって、スピードを出す車が走る

住宅からの視線が少ない歩道

②運転手のマナー上の要因

歩道に駐車車両がはみ出している

工場の塀と住宅の北側外壁に挟まれた視線のない道路

③積雪、除雪上の要因

交差点の雪山で見通しが悪い

車庫が住宅からの視線を遮る道路

本書の利用にあたってのお願い

この住まいとまちの学習プログラム集は、より多くの皆さんに住教育に取り組んでいただくことを期待して作成しました。掲載されているプログラムは授業の目的などに応じて修正するなどして活用していただくようお願いいたします。

今後、プログラムの実践の過程で出てきた課題、工夫や新たなプログラムの提案などを加えて、より有用なものへと改訂していきたいと考えています。また、住教育を実践される、教師の方々、地域の方々で情報を共有し住教育が発展していくことも期待しています。このため本書を参考に、住まいや環境に関する授業、行事などを実施する予定がある場合または実施した場合には、実践の概要について下記まで情報提供を寄せていただくようお願いいたします。

連絡先：北海道立北方建築総合研究所居住科学部

発行　北海道立北方建築総合研究所

〒078-8801　旭川市緑が丘東１条３丁目１－20
TEL 0166-66-4211　FAX 0166-66-4215
E-Mail info@hri.pref.hokkaido.jp

印刷　中村印刷株式会社